

## 12．準備書等に対する意見等の概要



## 12. 準備書等に対する意見等の概要

### 12.1 準備書に対する市民等意見の概要

本事業における環境影響評価準備書は、仙台市環境影響評価条例第14条第1項に基づき、平成24年4月18日から平成24年5月17日までの1ヵ月間、縦覧を行った。

意見の提出期間となる平成24年4月18日から平成24年5月31日までにおいて、環境の保全及び創造の見地からの意見を有する者の意見書の提出はなかった。

## 12.2準備書に対する市長の意見

本事業における環境影響評価準備書に対する市長意見は、平成 24 年 8 月 15 日に以下のとおり述べられている。

### 1 全体事項

- (1) 本事業は、仙台市の重要な拠点である仙台駅に直結した施設の建設であり、本事業の環境配慮は東北全体の取組みを先導していくものとなることから、本事業の事業計画がより環境に配慮したものとなるよう更なる検討を行うとともに、その結果を環境影響評価書に分かりやすい表現で記載すること。

特に次の内容について求めるものである。

本事業では、二酸化炭素低減の具体的な目標としてオフィス棟では CASBEE A ランク相当の設計を目指すとしているが、オフィス棟のみならず全施設について標準以上の目標を設定し、本事業計画が環境に配慮したものとなるよう検討を行うこと。

再生可能エネルギーの導入を確実に行う計画とし、具体的な導入設備、位置及び二酸化炭素排出量の予測等を評価書において可能な限り明らかにするとともに、その評価を行うこと。

本事業では、青葉通と宮城野通との連続性のある緑のネットワーク創出を目指すとしている。緑化計画の具体化にあたっては、生態的な連続性を確保するため、低木だけではなく中層木も取り入れるよう検討を行うこと。また、本事業による屋上緑化や自由通路空間によりどのように緑を「つなぐ」のかを明らかにすること。

### 2 個別事項

(騒音)

- (1) 供用時の騒音の発生源となるスピーカーを使用する場合は、一台あたりの音量を下げるなど必要に応じた環境保全措置を行うこと。

(風害)

- (2) 一般的なビル風による強風の影響の調査、予測及び評価のみならず、弱風による大気の滞留等の影響、海側から仙台駅を通して内陸側に行く風の流れの経路への影響を予測・評価すること。なお、予測にあたっては現地の状態を適切に代表する風速を設定するとともに、夏季と冬季の典型的な状況下について検証すること。
- (3) 環境影響評価準備書提出以降に事業地周辺に新築された高層建築物による風環境の変化が、環境保全及び創造のための措置を必要とするか否かを確認するため、適切な予測を実施すること。

(廃棄物等)

- (4) 中水施設から発生する污泥が廃棄物として排出されることから、当該施設の処理方式等から適切に污泥量を算定し、予測に加えること。
- (5) 竜の口層からの掘削土壌については、自然由来の土壌汚染のおそれがあるため、本事業による排出量とその処理方法を明確に示すこと。

(温室効果ガス等)

- (6) 環境影響評価準備書の提出以降に導入が明らかになった熱源機器などに応じて、温室効果ガスの予測・評価を再度行い、評価書に記載すること。
- (7) 温暖化係数が大きいハイドロフルオロカーボンや六フッ化硫黄などの使用の有無について記述に食い違いがみられるため、事実を確認し使用が認められる場合は、温室効果ガスの予測に反映させること。

### 12.3市長意見に対する事業者の見解

環境影響評価準備書に対する市長意見に対する事業者の見解は、以下のとおりである。

#### (1) 全体的事項

表 12-1 市長意見に対する事業者の見解

市長の意見	事業者の見解
<p>本事業は、仙台市の重要な拠点である仙台駅に直結した施設の建設であり、本事業の環境配慮は東北全体の取組みを先導していくものとなることから、本事業の事業計画がより環境に配慮したものとなるよう更なる検討を行うとともに、その結果を環境影響評価書に分かりやすい表現で記載すること。</p> <p>特に次の内容について求めるものである。</p> <p>本事業では、二酸化炭素低減の具体的な目標としてオフィス棟ではCASBEE Aランク相当の設計を目指すとしているが、オフィス棟のみならず全施設について標準以上の目標を設定し、本事業計画が環境に配慮したものとなるよう検討を行うこと。</p>	<p>本事業では、施設全体でCASBEE（建築環境総合性能評価システム）の評価方法を用いて、建築物の環境性能評価を行った。</p> <p>東西自由通路、商業施設、ホテル棟については、施設の特性を整理して、仮想空間の設定を行ったうえ、複合施設として評価を行い、CASBEE「B+」ランク相当の計画とした。また、オフィス棟についてはCASBEE「A」ランク相当の計画とした。</p> <p>記載箇所：「1.7.13 省エネルギー対策方針」（P1-36） 記載箇所：「8.11 温室効果ガス等」（P8.11-12）</p>
<p>再生可能エネルギーの導入を確実に行う計画とし、具体的な導入設備、位置及び二酸化炭素排出量の予測等を評価書において可能な限り明らかにするとともに、その評価を行うこと。</p>	<p>本事業は、再生可能エネルギーの導入としての太陽光発電について具体的に記載した。</p> <p>また、温室効果ガス等においては、太陽光発電導入時の電気削減量を踏まえた二酸化炭素排出量を予測した上で、評価した。</p> <p>記載箇所：「1.5 環境の保全創造等に係る方針」（P1-9,12） 記載箇所：「8.11 温室効果ガス等」（P8.11-8,12,15）</p>
<p>本事業では、青葉通と宮城野通との連続性のある緑のネットワーク創出を目指すとしている。緑化計画の具体化にあたっては、生態的な連続性を確保するため、低木だけではなく中層木も取り入れるよう検討を行うこと。また、本事業による屋上緑化や自由通路空間によりどのように緑を「つなぐ」のかを明らかにすること。</p>	<p>青葉通と宮城野通の「連続する緑のネットワーク創出」をどのように計画したのかを、鳥瞰イメージ図により、わかりやすく表現した。</p> <p>また、樹種については、日照時間や気温等の緑化場所の特性、宮城県内での生息状況等を考慮して選定した。</p> <p>記載箇所：「1.7.6 緑化計画」（P1-28～30）</p>

(2) 個別的事項

表 12-2 市長意見に対する事業者の見解

市長の意見	事業者の見解
<p>(騒音)</p> <p>供用時の騒音の発生源となるスピーカーを使用する場合は、一台あたりの音量を下げるなど必要に応じた環境保全措置を行うこと。</p>	<p>供用後、スピーカーによる館内放送を行う予定としているが、施設利用者への影響が過大にならないように配慮し、スピーカーの設置について環境保全措置に記載を行った。</p> <p>記載箇所：「8.2 騒音」(P8.2-58)</p>
<p>(風害)</p> <p>一般的なビル風による強風の影響の調査、予測及び評価のみならず、弱風による大気の滞留等の影響、海側から仙台駅を通して内陸側に行く風の流れの経路への影響を予測・評価すること。なお、予測にあたっては現地の状態を適切に代表する風速を設定するとともに、夏季と冬季の典型的な状況下について検証すること。</p>	<p>弱風による大気の滞留等の影響、海側から仙台駅を通して内陸側に行く風の流れの経路への影響については、下記的前提条件で影響を予測し、その結果を基に評価を行った。</p> <p>弱風時の風向及び風速設定は以下のケースとし、風速はそれぞれの平均風速として計算を行った。</p> <p>南東(夏季の卓越風) 西北西(冬季の日中における卓越風) 北北西(夜間の卓越風・年間最多風向)</p> <p>計算方法は、現在の流入面の平均風速を 10m/s に一定の比率を掛けて換算した。</p> <p>記載箇所：「8.8 風害」(P8.8-5～39)</p>
<p>(風害)</p> <p>環境影響評価準備書提出以降に事業地周辺に新築された高層建築物による風環境の変化が、環境保全及び創造のための措置を必要とするか否かを確認するため、適切な予測を実施すること。</p>	<p>環境影響評価準備書提出以降に事業地周辺に新築された高層建築物も考慮し、風環境の変化について予測を行い、評価した。</p> <p>記載箇所：「8.8 風害」(P8.8-8～14, P8.8-17～39)</p>
<p>(廃棄物等)</p> <p>中水施設から発生する汚泥が廃棄物として排出されることから、当該施設の処理方式等から適切に汚泥量を算定し、予測に加えること。</p>	<p>施設の稼働に伴う廃棄物の発生量とあわせて、厨房除外・中水設備の定期清掃時における汚泥の発生量を算定して予測した。</p> <p>記載箇所：「8.10 廃棄物等」(P8.10-13～15)</p>
<p>(廃棄物等)</p> <p>竜の口層からの掘削土壌については、自然由来の土壌汚染のおそれがあるため、本事業による排出量とその処理方法を明確に示すこと。</p>	<p>ボーリングの結果、竜の口層は地下 8m 以下に位置し、本事業の床付けは地下 9m であることから、竜の口層の掘削部分は約 7,500m<sup>3</sup>と考えられる。</p> <p>残土については、場内での埋戻しにのみ使用する計画としている。事前に土壌調査を行い、汚染が確認された残土は、関連法令に基づき、適切に処理する。</p> <p>記載箇所：「8.10 廃棄物等」(P8.10-8, 20)</p>

表 12-3 市長意見に対する事業者の見解

市長の意見	事業者の見解
<p>(温室効果ガス等)</p> <p>環境影響評価準備書の提出以降に導入が明らかになった熱源機器などに応じて、温室効果ガスの予測・評価を再度行い、評価書に記載すること。</p>	<p>環境影響評価準備書の提出以降、温室効果ガスが封入されている機器から漏洩の可能性について確認を行い、空冷ヒートポンプパッケージに封入されているハイドロフルオロカーボンについて、CO<sub>2</sub>漏洩量の予測を加えた上で再度評価を行った。</p> <p>記載箇所：「8.11 温室効果ガス等」(P8.11-4～6,8,12,15)</p>
<p>(温室効果ガス等)</p> <p>温暖化係数が高いハイドロフルオロカーボンや六フッ化硫黄などの使用の有無について記述に食い違いがみられるため、事実を確認し使用が認められる場合は、温室効果ガスの予測に反映させること。</p>	<p>本事業においては、ハイドロフルオロカーボンや六フッ化硫黄などの使用を有する機器があることから、これらの機器からのCO<sub>2</sub>漏洩量を含めた予測を行った。</p> <p>記載箇所：「8.11 温室効果ガス等」(P8.11-4～6,8)</p>

